委員会報告

アプローチ(TDA) による災害に強い社会づくり」 開催 ウェビナー「COVID-19下における分野・部門横断的 ACECC TC1の取り組み

勝濵 良博(正会員 日本工営(株) DX推進室: ACECC TC21国内支援委員会 幹事

アジア土木学協会連合協議会 (Asian

of Civil Engineers: PICE) が主催した フィリピン土木学会 (Philippine Institute 表を通じてTDAの考え方の普及、実践 など意欲的に活動している。また、TC21 策決定者との面談、調査・分析を実施する フ以降、分野・部門横断的アプローチ あるTС21は、2016年のキックオ ACECCの第39回理事会と並行して行 を進めてきた。この度、2020年10月の ナーを実施するとともに、出版や論文発 はこれまで数多くのシンポジウムやセミ よる災害に強い社会づくりを目指して、政 ACECC) の21番目の技術委員会で Civil Engineering Coordinating Council: (Transdisciplinary Approach:TDA) じ

> による災害に強い社会づくり」をテーマ ナーを開催したので報告する。 に、PICEの主催によりTC21のウェビ

COVID-19下の災害対策

ナーを開催した。表1にプログラムを示す。 この情報共有促進を目的として、本ウェビ のの、世界的な情報共有は限定的である。 対策は、世界各地でも課題になっているも スタンスが要求されるなかでの防災・減災 D-19の世界的流行により、ソーシャルディ 難活動にも大きな影響が出た。COVI 令和2年7月豪雨の際には、新型コロナウ イルス (COVID-19) の影響により、避 球磨川沿川などで大きな被害を出した

土木技術者の責務とTDA

PICEのSuero会長からは、COVI

よる検証が重要であるが、対面以外の方法 報の信頼性を高めるためには地元住民に 用されていることが紹介された。一方、

ける分野・部門横断的アプローチ(TDA)

われる行事として、「COVID-19下にお

ことが紹介され、TDAによる科学的知見 このために、TC21によって事例研究や、 会づくりに向けた責務は変わらないこと、 においても、土木技術者の災害に強い社 の開会挨拶があった。 に基づく意思決定が非常に重要であると TDAの考え方の普及が進められている D-19下においても、ポストCOVID-19 続いて、TC21のMomo共同議長(フィ

画「ビルド・ビルド・ビルド」の下、建設 アカデミア、市民、NGOの協働による た。また、政府だけではなく、民間企業、 の努力が求められていることが述べられ が、COVID-19の負の影響軽減のため 産業は同国の発展に大きく貢献してきた ていること、同国の大規模インフラ整備計 市民生活や経済活動に深刻な影響を与え 行った。フィリピンでもCOVID-19が リピン国下院議員:写真1) が基調講演を

パンデミック下のTDA TDAが重要であることが強調された。

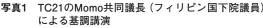
リスクおよび構造物の地震に対する脆弱 によるレジリエンス強化計画」をテーマ 氏 施されている、マニラ首都圏における災害 に、コロナの影響による移動制限のなか実 (写真2)は、「COVID-19下のTDA フィリピン大学ディリマン校の Aquinc

性調査について講演した。この中では、

ンライン会議といったデジタル技術が活 を避けるためにウェブ情報や航空写真、

時間	内容	スピーカー
21:00 - 21:05	開会挨拶	Dr. Erdsan Rene S. Suero, PICE National President
21:05 - 21:10	基調講演	Hon. Congressman Romeo S. Momo (TC21 Co-chair)
21:15 - 21:30	Transdisciplinary Approach to Resilience Planning Amid the Covid-19 Pandemic	Dr. Diocel Harold Aquino, Assistant Professor, Institute of Civil Engineering, University of the Philippines, Diliman, Quezon City, Philippines
21:30 - 21:45	Enhancing Preparedness of Local Governments by Using "a Collection of Critical Situations during Flood Emergency Response under COVID-19" (水害対応ヒヤリ・ハット事例集を活用した地方自治体の災害対応力の向上)	Dr. Miho Ohara, Senior Researcher, International Centre for Water Hazard and Risk Management (ICHARM), Adjunct Associate Professor, National Graduate Institute of Policy Studies (GRIPS)
21:45 - 21:55	質疑応答	
21:55 - 22:00	閉会挨拶	Dr. Mikio Ishiwatari, University of Tokyo/JICA (TC2 Co-chair)

民の真意を引き出す取り組みが行われて を解決するために土木技術者と社会科学 者が分野を越えて協力することにより、 では正確な意図が伝わりにくいため、 ヒヤリ・ハット事例と教訓 いることが紹介された。 これ 住





定員の関係でZoomでは参加できない人向けに Facebookでもライブ配信した(写真は講演者の Dr. Diocel Harold Aquino)

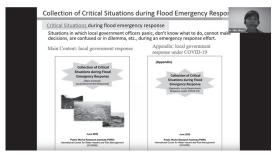
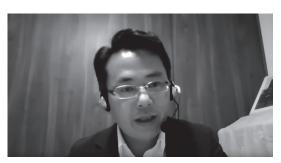


写真3 ICHARM大原氏によるヒヤリ・ハット事例集の紹介



TC21の石渡共同議長による閉会挨拶 写真4

明した。 分野、 別冊も公開されたことが説明された。ま 例」と定義して、これらから得られる教訓 陥る事例を「水害対応ヒヤリ・ 力、安全工学と防災の知見の融合といった COVID-19流行下における対応を示す を事例とともに紹介していること、また、 本取り組みが研究機関と自治体の協 部門横断による成果であることを説

ACECC TC1の役割

共通しており、 は して、 できるものは何かとの参加者の質問に対 質疑応答では、日本とフィリピンが共有 地震や風水害など自然災害が多い点が Aquino氏と大原氏はともに、両国 事例と教訓の共有によって

向

上を目指してICAHRMが公開し

たものである。

自

治体職員が

「困る・焦

る・戸惑う・迷う・悩む」などの状況に

向上」と題して講演した。同事例集は、

地

集を活用した地方自治体の災害対応力の 真3) は、「水害対応ヒヤリ・ハット事例 マネジメント国際センター) の大原氏

続いて、

ICHARM (水災害・リスク

方自治体の防災担当部署の災害対応力の

ハッ ト事 答した。

が

可能になり、TC21が進めるTD

Α

おわりに

していたフィリピンにおける現地調査が 今年度はコロナの影響により、 当初予定 災害に強 い社会づくりに貢献できると

口

限を受けた。今回は、コロナの影響下にお 中止されるなど、TC21の活動も大きな制

利用により、通常ではこのようなセミナー いても、ウェビナーというデジタル技術

の参加が難しい人や、

地域からの参

加

基づく災害に強い社会づくりと、各国が互 する謝辞で閉会した。 する本ウェビナーの関係者と参加者に対 を要請するとともに、PICEを始めと ることがTC21の役割であると述べた。ま 後も各国の事例を調査、分析して、共有す いに教訓を学びあうことが重要であり、 石渡共同議長 (写真4) は、科学的知見に 本ウェビナーの閉会挨拶として、TC21 TC21の活動に対する変わらない支援

> おける災害に強い社会づくりという新し 考え方の普及や、ニューノーマルの状況に

いテーマについて議論を進めることがで

学会学術交流基金や公益増進事業の助 も得て活動を行っている。関係諸氏の多大 ダーシップの下、登壇者、 とができた。また、TC21は公益信託土木 者の皆様の多大な協力により実現するこ 今回 のウェビナーは、PICEのリー JSCEの関係

な支援、ご指導に謝意を表す。 なお、TC21活動の成果品を含

る 内支援委員会サイトに公開して TC21およびACECC TC21 む各種情報 は、 以下のACECC

sce.or.jp/acecc02 http://www.acecc-world.org/TC21 A C E C C ACECC TC21サイト イト (和文): http://committees TC21国内支援委員 (英文)